

チュートリアル課題 お母さんの一人暮らし

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032227

2013年度 Segment. 6

課 題 No.6

課題名：お母さんの一人暮らし

課題作成者：脳神経外科学
脳神経外科学

天野 耕作
岡田 芳和



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

佐藤 妙子さん（75歳）は、夫に先立たれ都心部で一人暮らしです。息子、一郎さん（48歳）は東京郊外に奥さん子供と一緒に暮らしています。一郎さんが家族を連れて正月に実家を訪れると、いつもは整理整頓されている部屋が散らかっていました。本人曰く、最近足が弱ってきて歩くのが億劫になってきたとのこと。この日は昔話に花を咲かせ一郎さんは帰宅しましたが、お母さんを一人にしておいていいのか先行き不安になりました。

シート2

夏になり再び一郎さんが実家を訪れると、妙子さんは杖をついて歩いています。また手足に何度か転んだような傷跡が沢山あります。本人に問い質しても大丈夫だと言い張るばかりで、話しが噛み合いません。ようやく説得して整形外科の病院に連れて行き、諸々の検査を受けましたが、足、腰に異常はありませんでした。

シート3

その後一郎さんは心配になり定期的に電話をしますが、妙子さん本人は大丈夫だの一点張りです。翌正月に再度自宅を訪れると部屋はさらに散らかっており、尿の臭いが充満していました。会話は全く成り立たず、近のかかりつけ内科医院に連れて行きました。

シート4

「お歳はおいくつですか」「四十・・・・・・・・、五か六かな？」

「ここは何という病院ですか？」「都立病院だっけ？」

「それでは100-7は？」「えーと、95」

頭部CTの結果を見たかかりつけの内科の先生は、「なんでこんなになるまで放っておいたの？すぐに大学病院の神経内科を受診しなさい。」と言いました。大学病院では「原因を調べるために入院して検査が必要です。」と担当の医師に言われました。

シート5

様々な検査結果を示され、息子さんに病状の説明が行われました。「妙子さんは正常圧水頭症が疑われます。脳神経外科を受診してください。」と言われました。

シート6

脳神経外科に移って更に詳しい検査を受けました。その結果やはり正常圧水頭症の診断となり手術の詳しい説明を受けました。妙子さんには後日脳室-腹腔短絡術が行われました。

シート7

手術は無事終わり、妙子さんは杖をつかずに歩けるようになって1週間で退院しました。手術から1ヶ月後の外来に、妙子さんはきちんとした服装でお化粧をして現れました。また小走りができるまで歩行障害は改善し、なおかつ非常に饒舌になっていました。「大分よくなりましたね。でも油断しないで症状の変化を注意深く観察してください。」